

学長のコラム

仕事始めのご挨拶

新年明けましておめでとうございます。今年もどうぞよろしくお願いいたします。

正月休みに宮崎県境にある五ヶ瀬ハイランドスキー場に息子夫婦と 3 人の孫を連れて行きました。九州で育つと、雪を見たり触ったりしたこともないと言うからです。私は、一番下の孫（6 歳女）とそり遊びなどしておりましたが、息子が代わるというので、スキーに 50 年ぶりにチャレンジしました。しかし、一度転ぶと最後、もがきにもがいても立ち上がれないという経験を、妻からは年寄りの冷や水と揶揄され、さんざん、体力の衰えを思い知る結果となりました。一方、中一と中二の孫（男）には、午前中 2 時間程度の実技講習を受けさせました。講習中は、立っては転びの繰り返しでおぼつかなかったのですが、午後は自ら斜面に出て滑り、夕方帰る頃には、左に右にターンして斜面を滑って下れるまでになっていました。その吸収力と上達ぶりは、転んだら起き上がれない小生から見ると、驚くべきことでありました。そこで、思ったのは、私のような年寄りも、本学の学生を含む若者を教育することに全力を尽くすべきだということでした。

今年度の変化としては、世界的には、トランプ氏の米大統領就任（1 月 20 日）でしょうが、日米関係も、世界情勢もどう変化するのか予想のつかない不安がありますね。

本学も 4 月から、体制が変わります。まず、小生が学長に再任され、役職者の定年内規を定めました。それに基づき、石丸副学長は、キャリア教育センター長を兼務する特任教授に、高濱学部長を副学長（教育担当）に、杉内学科長を学部長にお願いすることにしました。安部副学長は留任です。今月には、学科長、専攻長等の選挙があります。新体制においても、皆様のご協力をお願いいたします。

事務職員も、課長級の人 2 名と新人 1 名を採用しますので、若干の変化があります。ご理解とご協力をお願いいたします。

今年の抱負ですが、2 年前の就任時に申し上げた 4 つのミッションの 2 番目（教育・研究の充実）については、見直した 3 ポリシーを 4 月 1 日に制定することを含めた教育改革を継続することに加え、地域包括連携医療教育研究センターの設置とキックオフシンポジウムの実施、アカデミックスキルラボの設置とアカデミックライティング講義の実施などがあります。ミッションの 3 番目（意欲とやりがいのある明るい職場）についても、具体策に着手したいと思います。具体的には、教員評価制度の見直しなどがあります。

また、ミッション 3 のために、皆様には、小さな楽しみ（目標）を設定し実現に努力することを提案します。小生は、5 年来の懸案であるスペイン旅行を 5 月の連休に行くことを楽しみにしたいと思います。大学としての楽しみとしては、新アリーナの建設があります。これから、少しずつ現れてくる姿を楽しみましょう。

1 月行く、2 月逃げる、3 月去るというように、あっという間に 4 月になりますが、その間、本学の最大の売りである、高い国試合格率、就職率 100% を実現するために総力を挙げ、明るい気持ちで、卒業式、新年度を迎えられるよう、ご尽力をお願いいたします。



1 月・2 月の主な行事予定

1 月 4 日（水）	仕事始め式 大邱保健大学学生 5 名受入れ（～2 月 3 日）
7 日（土）	認定看護師教育課程 認知症看護分野入学試験 合格発表：18 日
12 日（木）	第 6 回相互授業参観（ピアレビュー）
14 日（土）	大学入試センター試験（～15 日）
18 日（水）	大学院修士学位論文発表会（～19 日）
23 日（月）	入試業務説明会（～24 日）
27 日（金）	後期定期試験（～2 月 6 日）
2 月 4 日（土）	一般入学試験
9 日（木）	看護学科キャリア教育セミナー（九州内施設）
10 日（金）	看護学科キャリア教育セミナー（九州外施設）
11 日（土）	卒業 1 年目同期会「久しぶり、元気かい（会）」
24 日（金）	後期再試験（～3 月 1 日）
25 日（土）	第 43 回医学検査学科同窓会総会・講演会 「地震と構造物」崎元達郎学長（50 周年記念館）
27 日（月）	利益相反に関する研修会 弁護士 馬場 啓 氏

第 2 回 日中保健・医療・福祉フォーラム

12 月 15 日（木）、「日本と中国が抱えている高齢社会における保健・医療・福祉の諸問題や地域包括ケアの在り方」をテーマに、中国の広西医科大学から趙学長以下 6 名の先生方をお招きし、本学で標記フォーラムを開催しました。このフォーラムは、本学と崇城大学、熊本機能病院とで構成する実行委員会が主催し、総勢 253 名の方々が参加されました。米満理事長と趙学長による基調講演、崎元学長の話題提供等、日中双方にとって大変有意義な会となりました。

（文責：河瀬事務局長）



国家試験日と合格発表日

国家試験名	試験日	合格発表日
臨床検査技師	2月22日(水)	3月29日(水)
理学・作業療法士	2月26日(日)	
言語聴覚士	2月18日(土)	3月28日(火)
看護師	2月19日(日)	3月27日(月)
保健師	2月17日(金)	
助産師	2月16日(木)	

*

日本語研修

1月4日(水)～2月3日(金)にかけて、大邱保健大学からの依頼で、学生5名を日本語研修の為に本学で受入れることになりました。外部の日本語教師に指導していただき、5名中4名の学生は看護学科所属なので、空いた時間を利用して看護学科の講義や演習、施設見学にも参加してもらっています。その他、言語聴覚学専攻の先生方にもご協力いただきました。残りの時間はわずかですが、本学学生とも交流を深め、お互いに良い刺激を受けてもらいたいと思います。



私の秘話ヒストリー

今回は河瀬事務局長に投稿していただきました。

食パン1枚に目玉焼きを乗せ、添えられているのはペプシコーラ。これがホームステイでの、ある日の夕食メニューです。

今から約20年前、私は米国イリノイ州に3ヶ月滞在し、そのうち3週間はダウンスティーツの小さな町レバノンでホームステイを体験しました。その地区に滞在した日本人は私が初めてだったこともあり、“こんにちは”も通用しない中で言葉の壁にぶち当たり、ホストマザーのマシンガンスピーチに悩まされ続けました。追い打ちをかけるように、夢まで英語になり、24時間英語と格闘する過酷な生活を送りました。

食事・言葉には苦しめられましたが、教会で聖歌隊と共に合唱したり、高校生のキャンプに交じって乗馬をしたり、中学校では全校生徒の前でヤングマン(Y.M.C.A)を振り付きで歌ったり、全力で挑戦し、最高の感動を得ることのできた日々でした。その挑戦が度を過ぎて、セснаで飛行機酔いしたり、いつの間にか危ない地域に一人入り込んでいたりといった体験も、今となっては懐かしい思い出です。

(文責：河瀬事務局長)

熊本保健科学大学助産別科開設10周年記念事業

12月4日(日)に助産別科開設10周年記念事業を挙行了しました。記念式典・特別講演には、来賓の皆様と修了生ならびに多くの関係者にご列席を頂きました。記念式典後、日本看護協会理事福井トシ子氏による特別講演「助産実践能力としてのケアリングの姿勢」がありました。助産師のキャリアパス・助産実践応力習熟度(クリニカルラダー CloCMip®)をはじめとして、日本看護協会が目指す全世代型地域包括ケアシステムに関わる地域母子保健における助産師の役割および助産実践能力としてのケアリングの姿勢について熱く語られました。



その後の祝賀会は、医療法人愛育会福田病院福田稔理事長の乾杯のご発声で始まりました。助産別科10年のスライドが上映されると、当時を懐かしむ声も聞かれ、和やかな席になりました。熊本県看護協会嶋田晶子会長の一本締めで、閉会いたしました。



10年という時の流れを振り返り、1年課程である本学助産別科の今後の方向を考える好機になりました。

(文責：堅野助産別科長)

平成28年度第2回新任教員によるお披露目講演会等

11月28日(月)に、今年度途中で着任された先生による「新任教員によるお披露目講演会」を実施しました。今回は生活機能療法学専攻の近講師に「認知症をもつ人とどのように関わればよいのか」というテーマでご講演いただきました。また、その他にも、米満理事長による「全国地域リハビリテーション支援事業について」、共通教育センターの渡邊講師による『「そだち場」の創造—「アカデミックスキル支援室(仮称)」開設に向けて』というテーマでもそれぞれご講演いただき、大変活気のある講演会となりました。

